

吳 永鎬 Oh Yang Ho

マイノリティとして生きる人々と

三〇代在日朝鮮人男性研究者としての私の経験

聞いて

瀬戸麗 Rei Sato 大阪大学人間科学研究科博士後期課程

大阪大学大学院未来共生プログラムでは、博士課程において地域や実践の現場から学ぶことを積み重ねてきました。今年度十周年をむかえるにあたり、第二弾のセミナーとして、若手研究者と『マイノリティ支援の葛藤』を出版された、吳永鎬さんから、プログラム5期生の履修生の瀬戸麗さんが話を聞く機会を設けました。プログラム関係者はもちろん、大学生、一般の方も大歓迎です。

瀬戸麗 (せと・れい)

大阪大学人間科学研究科と未来共生プログラムで学び、日本で暮らす移民の子ども・若者の教育支援に関する研究に取り組んでいる。

また、外国にルーツをもつ子どもの地域の学習支援教室にスタッフとして関わっている。

専門は教育社会学、異文化間教育学。主な論文に「居場所と学習のジレンマを超える教育的関係」(教育学研究 88-4)、「外国にルーツをもつ子どもの学習保障にむけた学校と地域組織の連携」(社会教育学研究 58)がある。

申し込みフォーム



<https://forms.gle/LPsJopN27KMBkLiX9>

開催日：2023年1月22日(日) 14~16時

会場：IKUNO・多文化ふらっと事務所

大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライズパーク (御幸森小学校跡地) A棟2F

参加費無料・要申込み：定員30人 (申込は上記QRコード/URLよりアクセスしてください)

主催：大阪大学未来共生プログラム・大阪大学COデザインセンター・いくのふらっとだいがく

朝鮮学校の教育史

脱植民地化への闘争と創造

吳永鎬



Conflicts in Support for Minorities

Exploring on the social structure of division and oppression

マイノリティ支援の葛藤

吳永鎬 坪田光平

なぜ特定の人々がマイノリティとされ、差別や排除の対象とされるのか。

吳永鎬 (お・よんほ)

鳥取大学地域学部准教授。研究テーマは、脱植民地化、多文化共生、戦後日本教育史。1984年東京生まれの在日朝鮮人3世。幼稚園から大学まで朝鮮学校に通った。

東京学芸大学大学院、一橋大学大学院を修了後、京都の世界人権問題研究センター専任研究員を経て現職。

編著に『マイノリティ支援の葛藤——分断と抑圧の社会的構造を問う』(2022年、明石書店)、共著に『公立学校の外国籍教員——教員の生、「法理」という壁』(2021年、明石書店)、『境界線の学校史——戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』(2020年、東京大学出版会、木村元編著)、『生活綴方で編む「戦後史」——〈冷戦〉と〈越境〉の1950年代』(2020年、岩波書店、駒込武編著)、単著に『朝鮮学校の教育史——脱植民地化への闘争と創造』(2019年、明石書店)など。

